

令和3年度外海離島災害廃棄物広域処理検討業務

令和2年度まで奄美群島以南の南西諸島を対象に災害廃棄物の広域的処理に係る課題と、広域処理の留意事項及び関係機関団体の連携の重要性を意見交換会等で確認してきた。令和3年度は沖縄本島以外に重要港湾を持つ沖縄県石垣市を対象に災害廃棄物処理に関わる諸課題を意見交換会にて検討した。

現地視察のポイント

①廃棄物処理施設に余力があるか？

- ・処理能力に対する処理実績、余力
- ・全体敷地の広さ、利用状況

②港湾施設の現状と貨物輸送の実態

- ・港湾全体の広さ、立地、利用状況
- ・貨物利用、旅客利用の状況(定期船・不定期船/係留施設)
- ・耐震強化岸壁の実態(災害廃棄物輸送への活用可否等)
- ・荷役機械、活用可能なコンテナ等の仕様・所在状況(利用可否、数量等の把握)

意見交換会のテーマ

①災害廃棄物の島内処理について

- ・クリーンセンター、一般廃棄物最終処分場、資源化・前処理施設

②石垣港の貨物海上輸送の現状について

- ・荷姿、ヤード荷役設備・重機・数、船荷役設備・重機・数、航路(行先)・船舶

③災害廃棄物の広域処理のための選択可能な海上輸送方法の想定について

- ・災害廃棄物の搬出側として石垣港で選択可能な荷姿、陸上輸送方法、ヤード荷役・船舶荷役方法、海上輸送方法の想定について
- ・代替的積出係留施設があるか？活用する場合の留意事項は？

④災害廃棄物を広域処理で受入れてもらう重要事項について

- ・広域処理の受入先について
- ・受入側の受入可能なごみ質・荷姿・搬入車両・量を想定について

⑤周辺離島の災害廃棄物の受入れについて

- 処理できる場合
- ・受入可能なごみの状態・質、荷姿・搬入方法が想定について
- ・一時保管場確保、受入荷下ろし用重機・人員について
- 広域処理の中継的受入れについて
- ・周辺離島からの受入、広域処理の海上輸送中継機能が求められる場合がある
- ・中継のための海上輸送(船舶・荷姿)、用地、人員について

令和2年度まで奄美群島以南の南西諸島を対象に災害廃棄物の広域的処理に係る課題と、広域処理の留意事項及び関係機関団体の連携の重要性を意見交換会等で確認してきた。令和3年度は沖縄本島以外に重要港湾を持つ沖縄県石垣市を対象に災害廃棄物処理に関わる諸課題を意見交換会にて検討した。

意見交換会で明らかになった石垣島周辺の現状と課題及び課題解決に向けた方向性

石垣島周辺の現状と課題

課題解決に向けた方向性

①災害廃棄物の島内処理について：

石垣市の焼却施設は老朽化が進み、最終処分場もいっぱい。市民との環境協定でプラスチックを燃やせないため最終処分場はプラスチックでふかふか。他の離島には小型焼却炉しかない。

プラスチックを燃焼可能な炉で回収することが原則。石垣市で焼却炉の改良や、市民協定の改定を頑張っていた。沖縄県で市町村の合わせ処理の推進や広域化に努める。

②石垣港の貨物会場輸送の現状について：

離島への高速船が1日約100往復。貨物船・漁船・巡視船等 年間46,000隻の船の出入りがある。貨物は100万t/年の取扱量で港の受容力もいっぱい。災害時の船舶や置き場及び係留施設の競合が予想される。

離島の災害廃棄物の海上輸送に関して国の支援があることが望ましい。国・県・大きな島・周辺の小規模な離島でスムーズに連絡・協議体制を構築することが重要。まずは上下左右緊密な連絡体制を作る。

③災害廃棄物を広域処理のための選択可能な海上輸送方法の想定について：

廃棄物を運搬する船舶はほとんど無い。現在は民間会社に離島廃棄物の海上運搬を頼っており無理を言えない。被災するとしばらく港は寄港不能となる可能性がある。

汚い物を乗せるため廃棄物を受け入れてもらう輸送体制の構築が20年来の課題だが解決していない。

④災害廃棄物を広域処理で受け入れてもらう重要事項について：

民間のフェリー等にらせていただいているのが現状で、むき出しのまま運搬し汚水がしみ出す事など厳禁。

パッカー車など直接船に乗る状態で運ぶか、コンテナ等の密閉性のある輸送容器で運搬が基本。離島へのフェリーには必ずフォークリフトが積まれており戦力になる。運び易いきれいな状態で本土に運ぶ。

⑤周辺離島の災害廃棄物の受入れについて：

県外連携が今後どういう形になるのか難しい。現状はケースバイケースで対応している。

国土交通省九州地方整備局でストックヤードを建設するために用地取得している土地の内、遊休地である場所をヤードとして提供できる可能性がある。